

岡山県感染症週報 2013 年 第 1 週 (12 月 31 日～1 月 6 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症警報』発令中です。

◆2013 年 第 1 週 (12/31～1/6) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 51 週 2 類感染症 結核 1 名 (60 代 男)

■定点把握感染症の発生状況

- 多くの感染症で前週と比べ減少しましたが、年末年始の医療機関休診の影響によるものと考えられます。
- インフルエンザは、県全体で 155 名 (定点あたり 1.43 → 1.85 人) の報告があり、前週より増加しました。
- 感染性胃腸炎は、4 週連続で減少しました (定点あたり 13.15 → 8.30 人)。

【第 2 週 速報】

○腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O 157 : 20 代 男) の発生がありました。(1 月 10 日)

- 腸管出血性大腸菌感染症**は、2012 年 12 月の 1 ヶ月間に 13 名が報告され、1 年間の累計患者数は 169 名になりました。2012 年の月別発生状況は、同年 8 月に発生した保育園での集団感染患者数を除くと 12 月の発生が最も多くなりました。例年、患者は冬に減少する傾向にありますが、冬でも感染の可能性はあります。食肉は中心部まで火を通すなど、通常の食中毒予防を励行し、感染予防に努めましょう。
- インフルエンザ**は、県全体で 155 名 (定点あたり 1.43 → 1.85 人) の報告があり、前週より増加しました。岡山県では第 52 週にすでに流行シーズン入りしており、また、学校等では新学期が始まり、感染の機会が増加しますので、今後急速な拡大が懸念されます。より一層の感染予防対策をお願いします。県内の詳しい発生状況などは『インフルエンザ情報』をご覧ください。全国では、第 52 週 (12/24～12/30) の定点あたり報告数が 3.35 人となり、前週 (2.23 人) より増加し、42 都道府県で増加が見られました。
- 感染性胃腸炎**の定点あたり患者数は、ほとんどの地域で減少しました (定点あたり 13.15 → 8.30 人)。倉敷市では発生レベル 3 が継続していますが、その他の地域はレベル 1 になりました。県内の発生状況など詳しくは『感染性胃腸炎情報』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★★
手足口病		★	伝染性紅斑		
突発性発疹		★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★★	クラミジア肺炎		

【記号の説明】 前週からの推移: : 2 倍以上の減少 : 1.1～2 倍未満の減少 : 1.1 未満の増減
 : 1.1～2 倍未満の増加 : 2 倍以上の増加
発生状況: 空白: 発生なし ★: 僅か ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い
※今週の流行状況を過去 5 年間で比較し、5 段階で表示しています。

【週報グラフ表示の切替えについて】

今週より、咽頭結膜熱・手足口病・伝染性紅斑・突発性発疹・百日咳・ヘルパンギーナ・流行性耳下腺炎・急性出血性結膜炎・流行性角結膜炎・細菌性髄膜炎・無菌性髄膜炎・マイコプラズマ肺炎・クラミジア肺炎については、2013 年にグラフ表示が切替わりました。春から秋にかけて流行が多い感染症は 1～52 週を 1 シーズンとして、秋から春にかけて流行が多い感染症は前年 27 週～今年 26 週を 1 シーズンとして、それぞれ感染症の流行する時期に応じてグラフを作成しています。

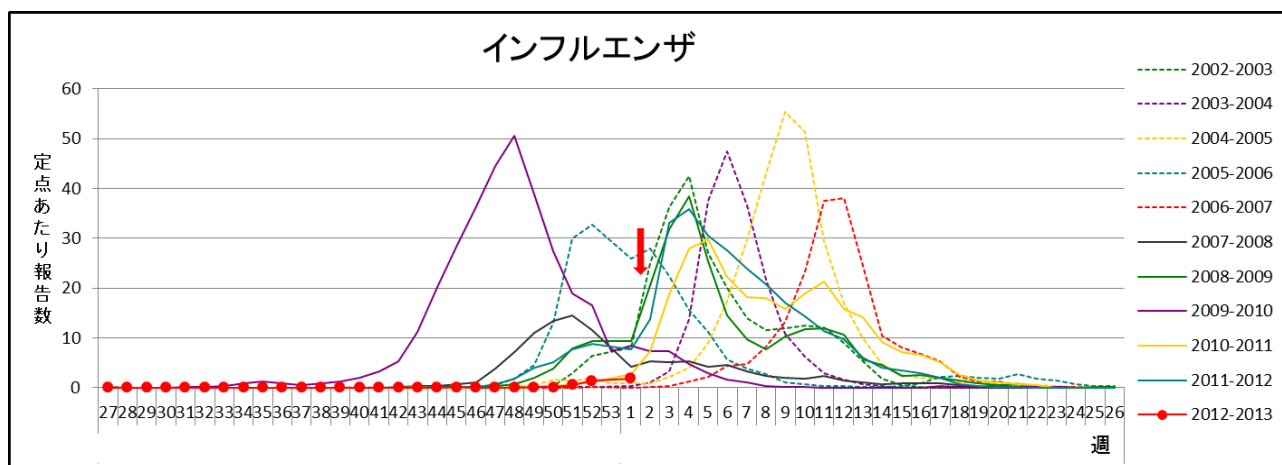
インフルエンザ情報 2013 年 第 1 週 (12 月 31 日 ~ 1 月 6 日)

岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 155 名（定点あたり 1.43 → 1.85 人）の発生があり、前週より増加しました。
- インフルエンザによる入院患者 1 名の報告がありました。
- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。

【第 2 週 インフルエンザウイルス検出速報】

- 県内で発生したインフルエンザ患者 4 名のうち、3 名からインフルエンザウイルス AH3 型が、1 名から B 型が検出されました。



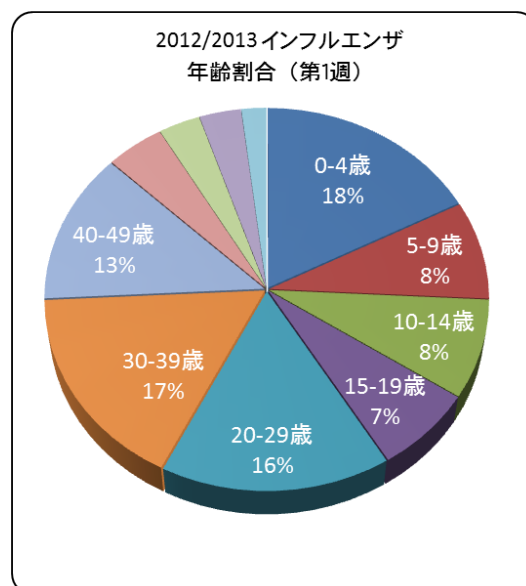
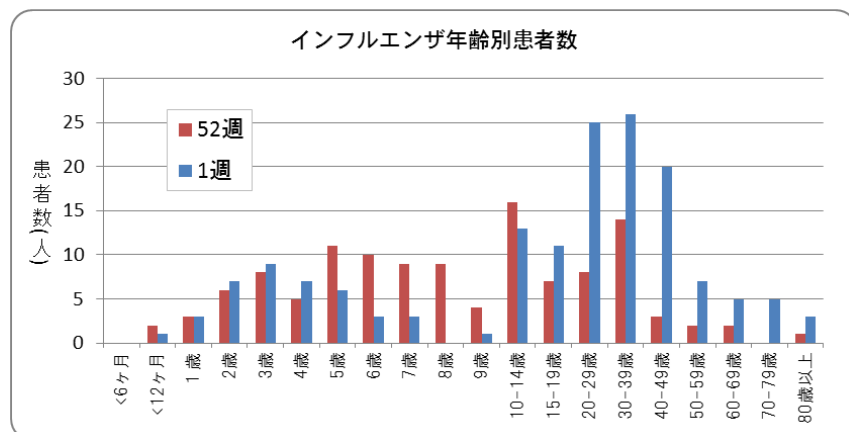
※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 155 名（定点あたり 1.43 → 1.85 人）の報告があり、前週より増加しました。地域別では、倉敷市（1.25 → 3.44 人）や美作地域（1.20 → 2.80 人）で大きく増加し、これまで発生のなかった真庭地域でも患者報告があるなど、県内全域で拡大が見られます。例年、学校等の冬季休暇終了後から急速に拡大する傾向がありますので、今後の動向に注意するとともに、自分でできる感染予防に努めてください。

全国集計第 52 週（12/24～12/30）によると、全国では定点あたり 3.35 人であり、前週（2.23 人）より増加しました。全国で検出されたインフルエンザウイルスは AH3 型が 86%、B 型が 9%、AH1pdm09 型が 5% であり、昨シーズンの同時期同様 AH3 型が最も多く検出されています。いずれの型も流行の可能性があり、全ての年齢層の方がインフルエンザに対する注意が必要です。

1. 年齢別発生状況 第 1 週 (12/31~1/6)

多くの学校等が冬季休暇に入っていたためか、幼稚園・小学生・中学生に該当する年齢層よりも、成人の患者増加が目立ちます。

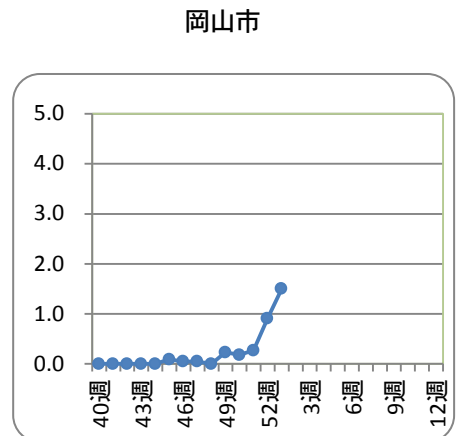
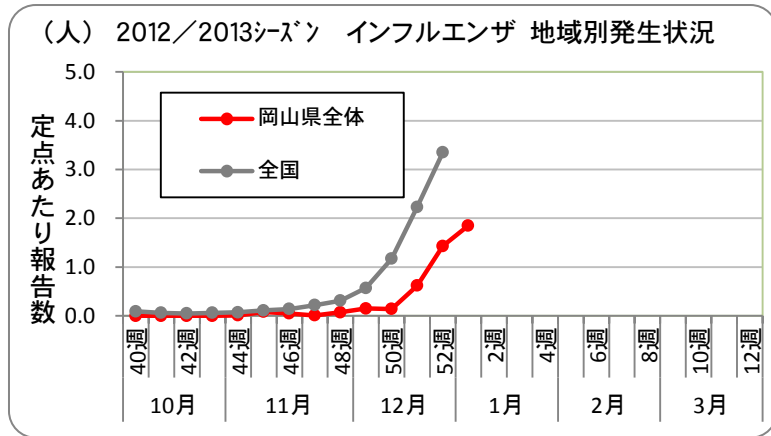


1. 地域別発生状況

第1週 (12/31~1/6) 前週からの推移 (単位:人)

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	155	↗	備 中	患者数	7	↗
	定点あたり	1.85			定点あたり	0.58	
岡山市	患者数	33	↗	備 北	患者数	1	↘
	定点あたり	1.50			定点あたり	0.17	
倉敷市	患者数	55	↗	真 庭	患者数	1	↗
	定点あたり	3.44			定点あたり	0.33	
備 前	患者数	30	↗	美 作	患者数	28	↗
	定点あたり	2.00			定点あたり	2.80	

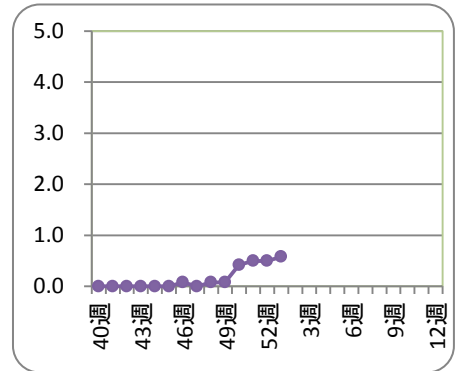
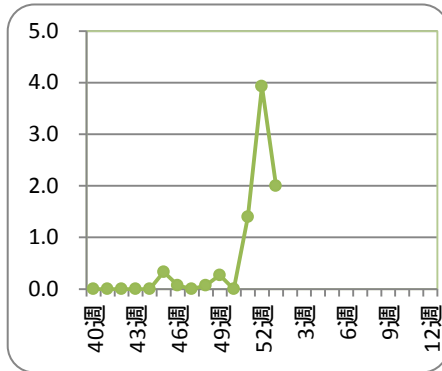
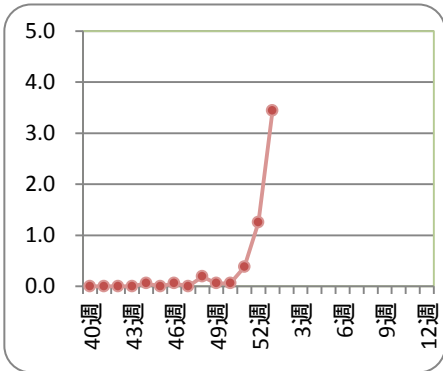
【記号の説明】 前週からの推移: 2倍以上の減少 ↓ 1.1~2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 →
 1.1~2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑ - : 未発生



倉敷市

備前地域

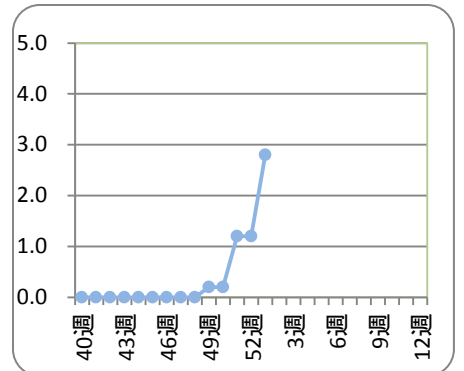
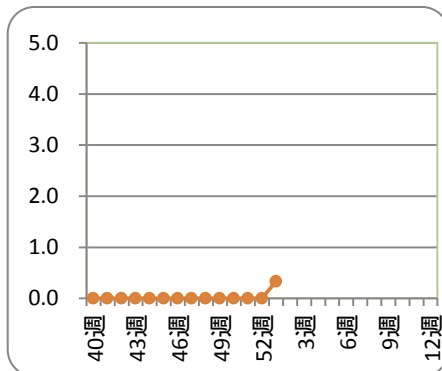
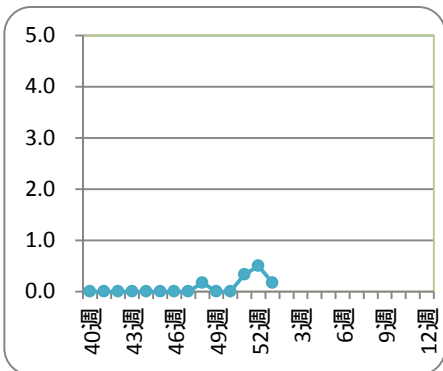
備中地域



備北地域

真庭地域

美作地域

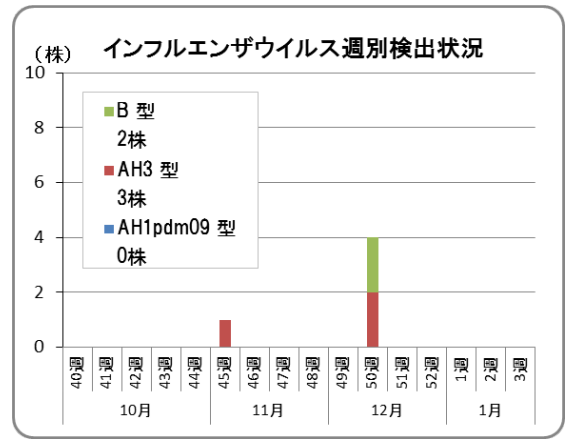


3. インフルエンザウイルス検出状況 第1週 (12/31~1/6)

第1週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありませんでした。

【ウイルス検出速報 第2週】

県内で発生したインフルエンザ患者4名のうち、3名からインフルエンザウイルスAH3型が、1名からB型が検出されました。



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数 第1週 (12/31~1/6)

第1週、インフルエンザとみられる学校の臨時休業はありませんでした。

1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	—	23	—	19	—	2	—	—	—	—	—	2	H24. 11. 6
岡山市	—	12	—	12	—	1	—	—	—	—	—	1	H24. 11. 6
倉敷市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備前地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備中地域	—	11	—	7	—	1	—	—	—	—	—	1	H24. 12. 12
備北地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
真庭地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
美作地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

5. インフルエンザによる入院患者報告数 第1週 (12/31~1/6) (県内基幹定点 5 医療機関による報告)

今シーズン初めて、インフルエンザによる入院患者1名(20代 男)の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。

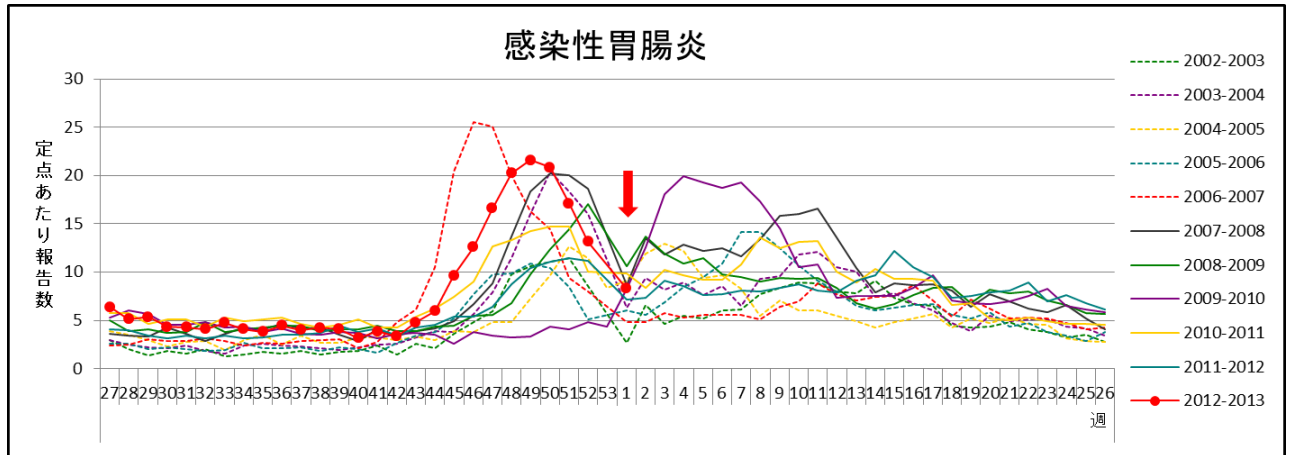
【平成24年9月3日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数						1							
ICU入室													
人工呼吸器の利用													
頭部CT検査(予定含)													
頭部MRI検査(予定含)													
脳波検査(予定含)													
いずれにも該当せず						1							

* 重複あり

感染性胃腸炎情報 2013 年 第 1 週 (12 月 31 日 ~ 1 月 6 日)

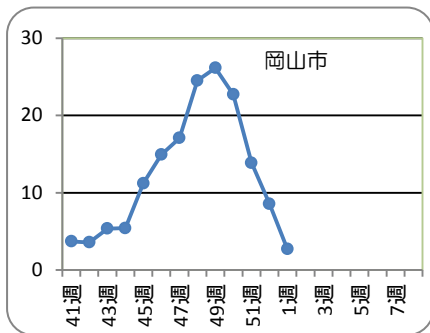
- 岡山県内の患者報告数は 448 名 (定点あたり 8.30 人) であり、前週より減少しました。(54 定点医療機関報告)
- 倉敷市でレベル 3 が継続しています。



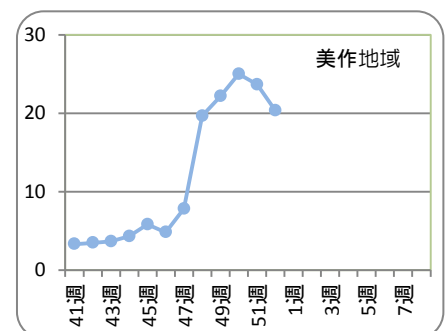
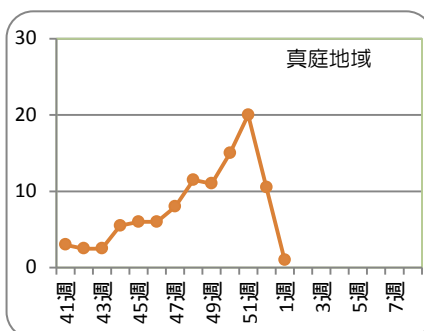
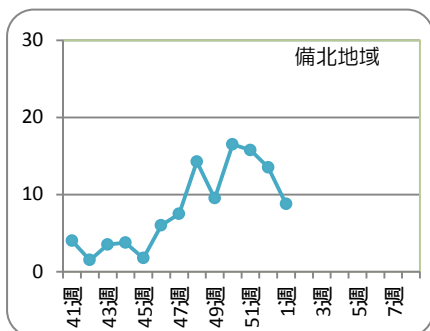
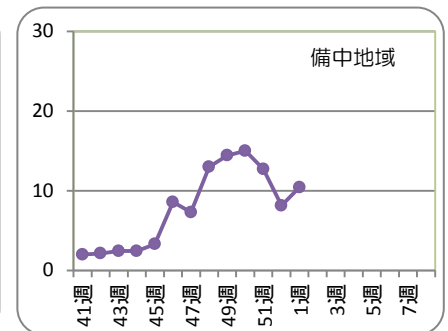
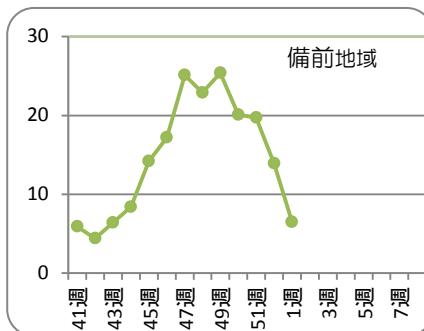
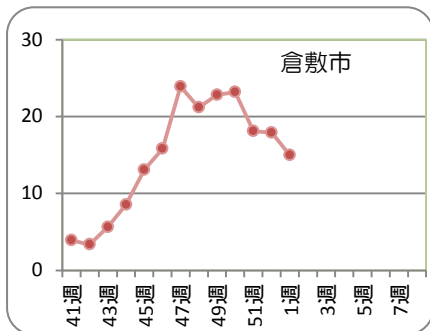
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

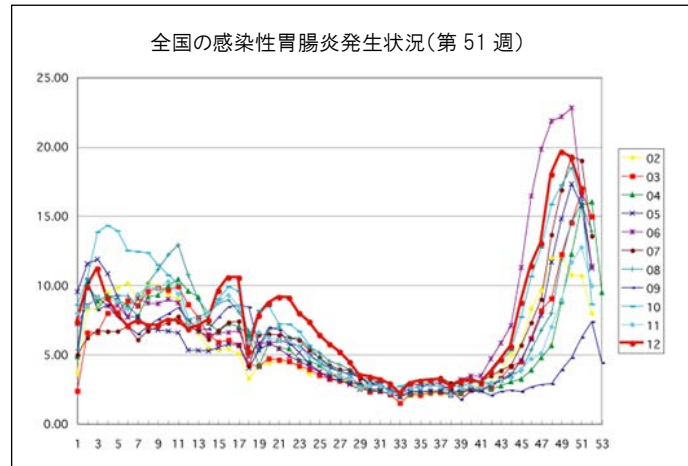
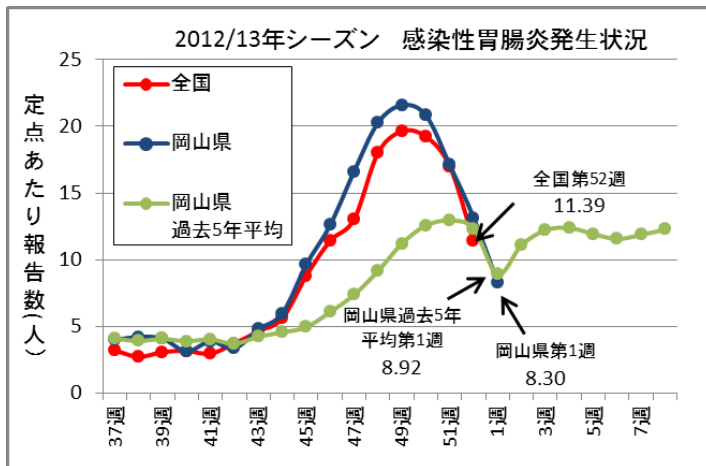
感染性胃腸炎は、4 週連続で減少しました (定点あたり 13.15 → 8.30 人)。倉敷市 (15.00 人) で発生レベル 3 が継続していますが^{*}、その他の地域ではレベル 1 になりました。患者の減少は年末年始の医療機関休診の影響も考えられ、また、学校等の冬季休暇が終了し、感染の機会が増加することから、今後再び増加する可能性もあります。今後の動向に注意するとともに、手洗いなど感染予防に努めてください。医療機関、福祉施設などではひきつづき、手洗いの徹底や、下痢便・吐物の適切な処理などの感染予防と拡大防止に努めてください。
(※：感染性胃腸炎は、発生レベル 3 の開始基準 20.00 人を一度越えると、終息基準値 12.00 人より下がらないとレベル 3 は解除されません。)

◆地域別・年齢別発生状況



年齢別では、5 歳以下の幼児で 43% を占めています。また、20 歳以上の割合も 18% から 22% に増加し、乳幼児、小児だけでなく、成人にも感染が拡大しており、全ての年齢層で注意が必要です。





(国立感染症研究所HPより)

この時期の感染性胃腸炎の主な原因であるノロウイルスの感染予防は、流水・石けんによる手洗いの励行と、吐物や下痢便の適切な処理を行うことが極めて重要です。排便後や、調理・食事の前には手洗いを励行しましょう。吐物や下痢便を処理するときは、使い捨ての手袋やエプロンを使用し、処理する人自身が感染しないよう気をつけ、また、他へ感染を広げないよう気をつけましょう。消毒には塩素系漂白剤を使用し、広い範囲を消毒して下さい。

アルコールは消毒効果が低いとされています。また、拭き取りに使った布などはただちにゴミ袋に入れ密閉し、廃棄してください。

- [○ノロウイルスに関するQ&Aについて\(厚生労働省\)](#)
- [○注意！この冬はノロウイルスに注意しましょう。\(厚生労働省\)](#)

【医療機関などの方へ】

◆ノロウイルスに関する院内感染事案の報告等に関する事務連絡が厚生労働省から発出されました。
(平成24年12月25日)

全国では、院内感染によるノロウイルスの集団感染事例や患者の死亡事案が散見されています。厚生労働省では平成24年12月25日付で、ノロウイルスに関する院内感染事案の報告等に関する事務連絡が発出され、さらなる感染予防対策に努めるよう注意喚起を行っています。

- さらなる手洗いの徹底や、糞便・吐物の適切な処理等の感染予防対策をお願いします。
- 院内感染によるノロウイルスの集団感染を疑う場合や、院内感染との因果関係が否定できない死亡事例が発生した場合は、速やかに管轄保健所に報告し、支援を受けるようお願いします。

保健所別報告患者数 2013年 1週 (2012/12/31~2013/01/06)

2013年1月10日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	155	1.85	33	1.50	55	3.44	30	2.00	7	0.58	1	0.17	1	0.33	28	2.80
RSウイルス感染症	37	0.69	10	0.71	4	0.36	-	-	2	0.29	3	0.75	-	-	18	3.00
咽頭結膜熱	3	0.06	2	0.14	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9	0.17	5	0.36	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
感染性胃腸炎	448	8.30	38	2.71	165	15.00	65	6.50	73	10.43	35	8.75	2	1.00	70	11.67
水痘	89	1.65	10	0.71	40	3.64	10	1.00	11	1.57	1	0.25	3	1.50	14	2.33
手足口病	4	0.07	4	0.29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	9	0.17	6	0.43	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	8	0.15	2	0.14	1	0.09	3	0.30	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.25	1	0.20	2	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	6	1.20	-	-	4	4.00	-	-	-	-	2	2.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 1週 (2012/12/31~2013/01/06)

2013年1月10日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	155	1.85	33	1.50	55	3.44	30	2.00	7	0.58	1	0.17	1	0.33	28	2.80
咽頭結膜熱	3	0.06	2	0.14	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9	0.17	5	0.36	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
感染性胃腸炎	448	8.30	38	2.71	165	15.00	65	6.50	73	10.43	35	8.75	2	1.00	70	11.67
水痘	89	1.65	10	0.71	40	3.64	10	1.00	11	1.57	1	0.25	3	1.50	14	2.33
手足口病	4	0.07	4	0.29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	8	0.15	2	0.14	1	0.09	3	0.30	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.25	1	0.20	2	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第1週 2012/12/31～2013/01/06)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	155	-	1	3	7	9	7	6	3	3	-	1	13	11	25	26	20	7	5	5	3

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	37	10	7	13	1	4	1	1	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	3	-	1	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9	-	1	-	-	-	2	1	3	1	-	-	-	-	1
感染性胃腸炎	448	5	18	54	31	31	24	28	24	18	18	20	57	22	98
水痘	89	1	5	18	18	14	11	13	3	1	1	-	4	-	-
手足口病	4	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	9	1	5	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	8	-	-	1	2	1	-	2	1	-	-	-	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	6	-	3	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

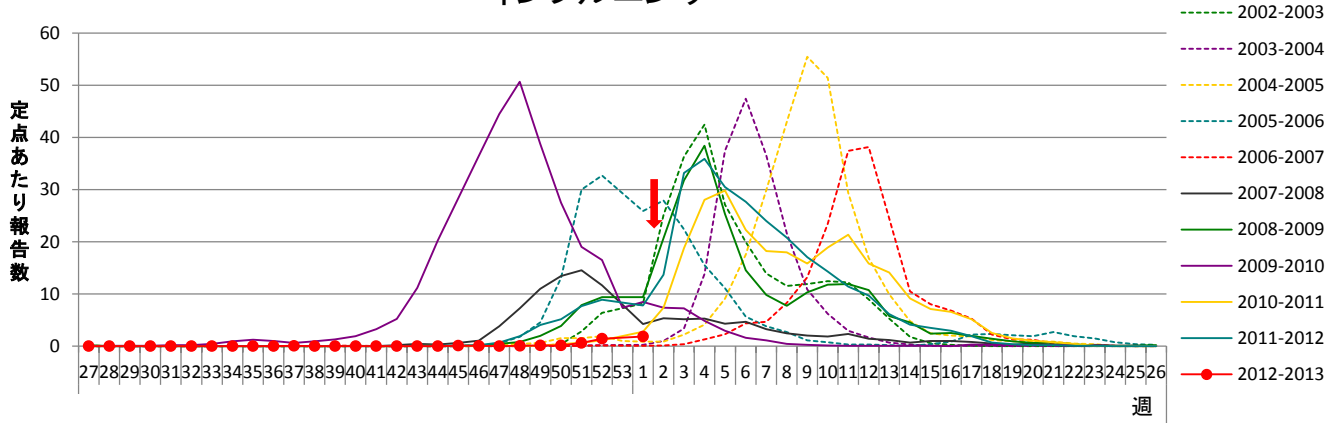
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

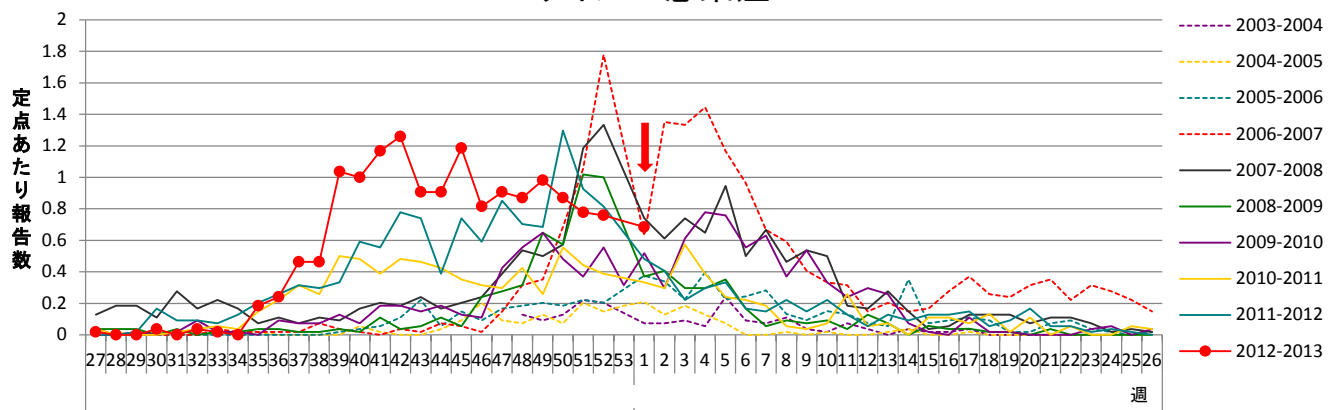
2013年 1週

分類	疾病名	2013			疾病名	2013			疾病名	2013		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	-	-	464	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	-	169
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	-	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	2
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-
	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	-	-	29	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	-	11	ウイルス性肝炎*3	-	-	7	急性脳炎*4	-	-
クリプトスポリジウム症		-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	1
後天性免疫不全症候群		-	-	15	ジアルジア症	-	-	3	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
先天性風しん症候群		-	-	-	梅毒	-	-	7	破傷風	-	-	1
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	2	風しん	-	-	6
麻しん		-	-	6		-	-	-		-	-	-

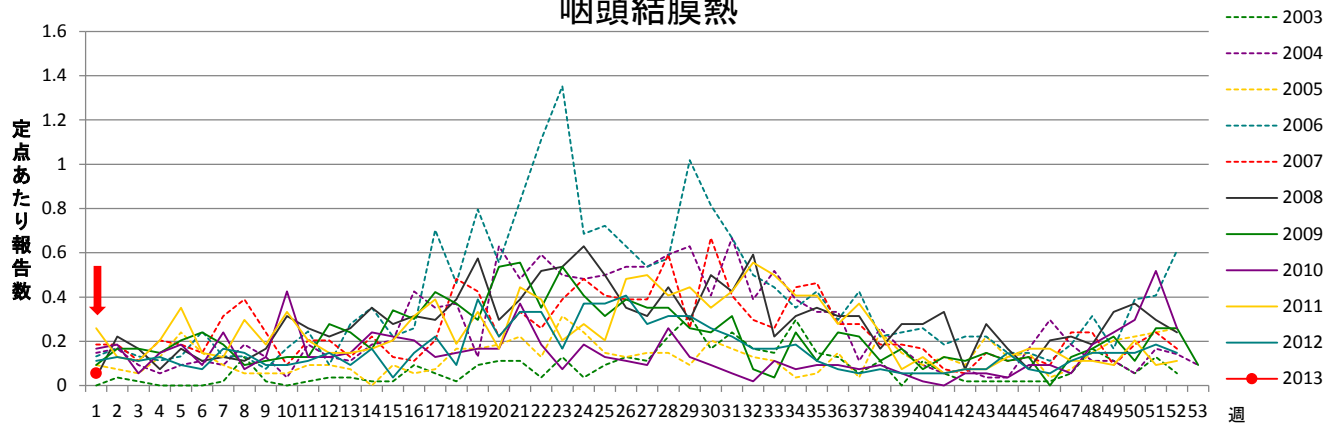
インフルエンザ



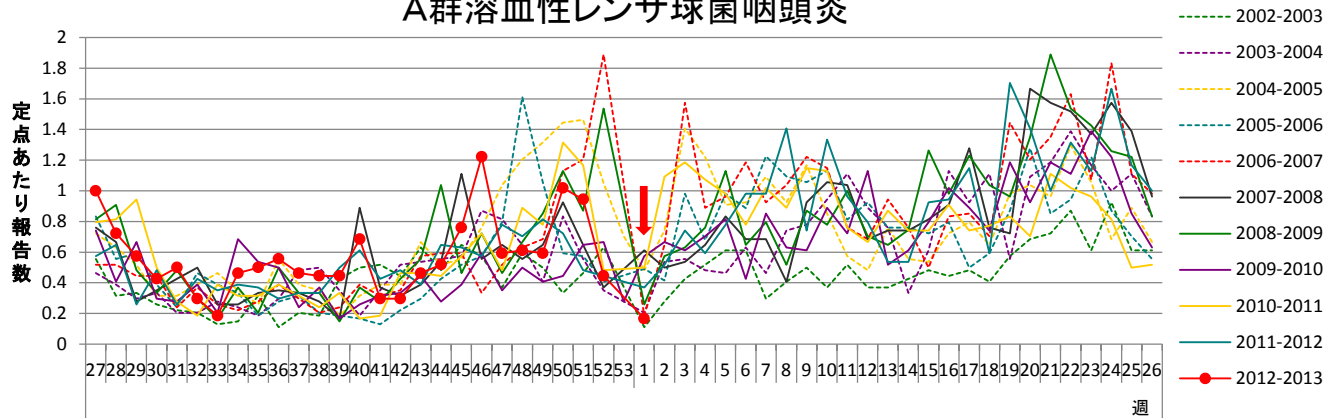
RSウイルス感染症



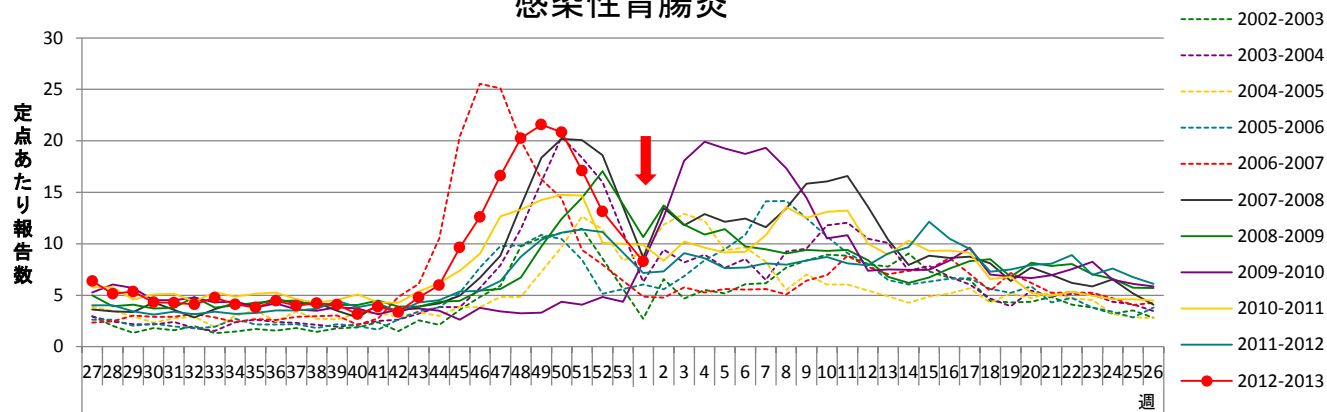
咽頭結膜熱



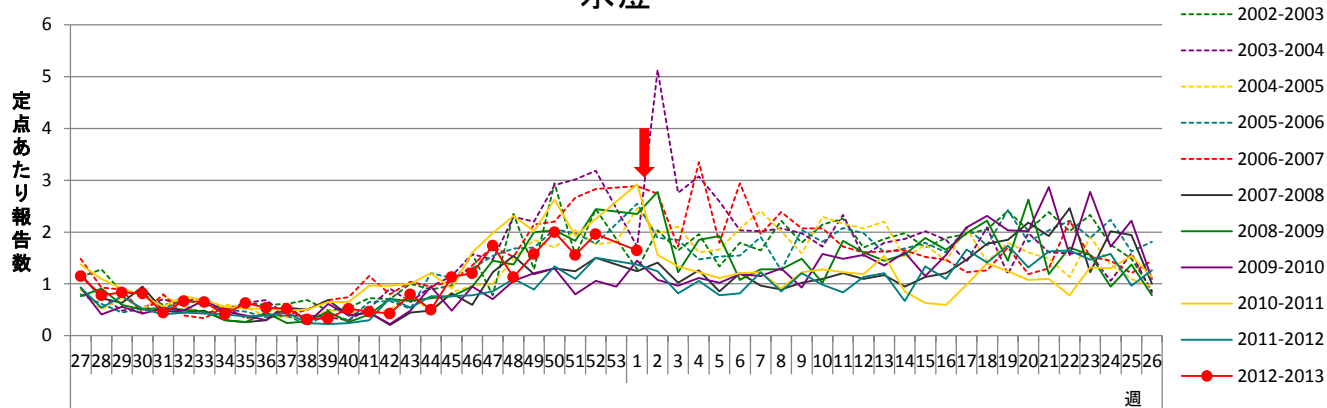
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



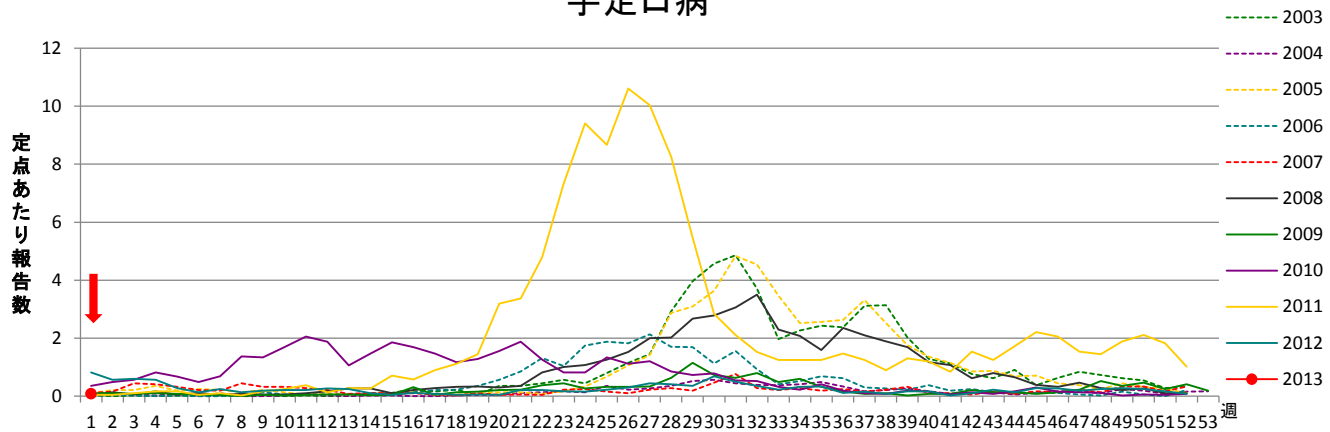
感染性胃腸炎



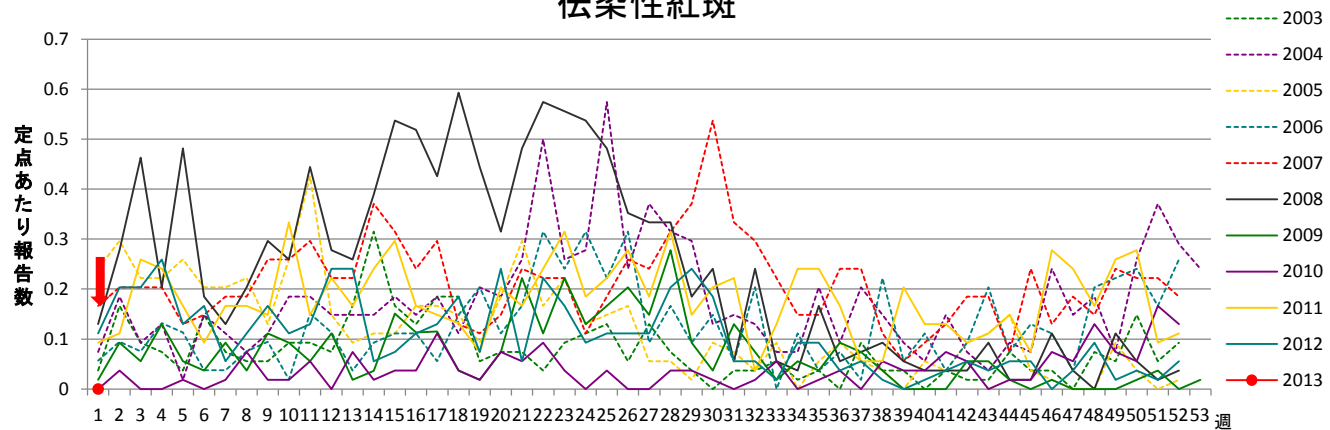
水痘



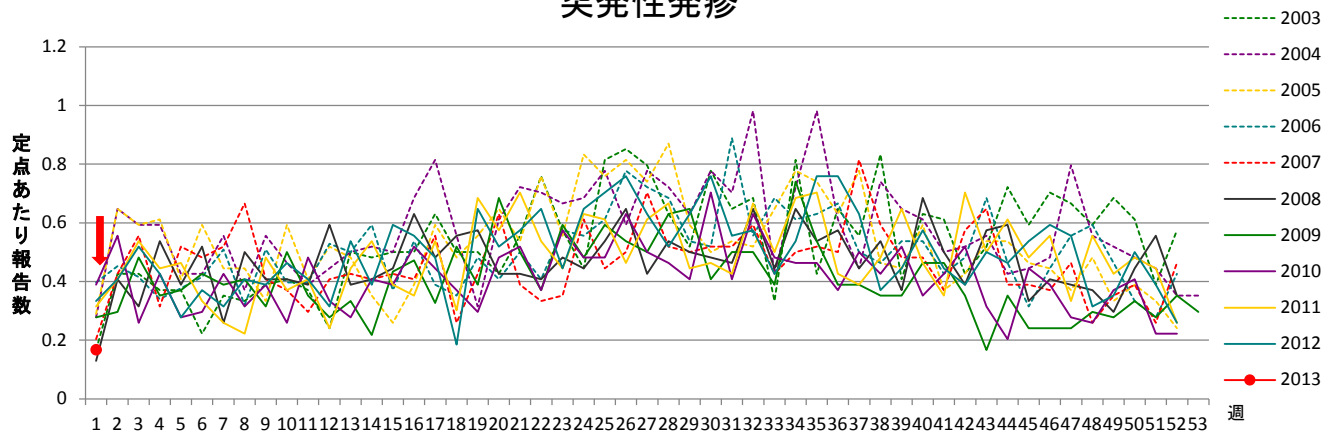
手足口病



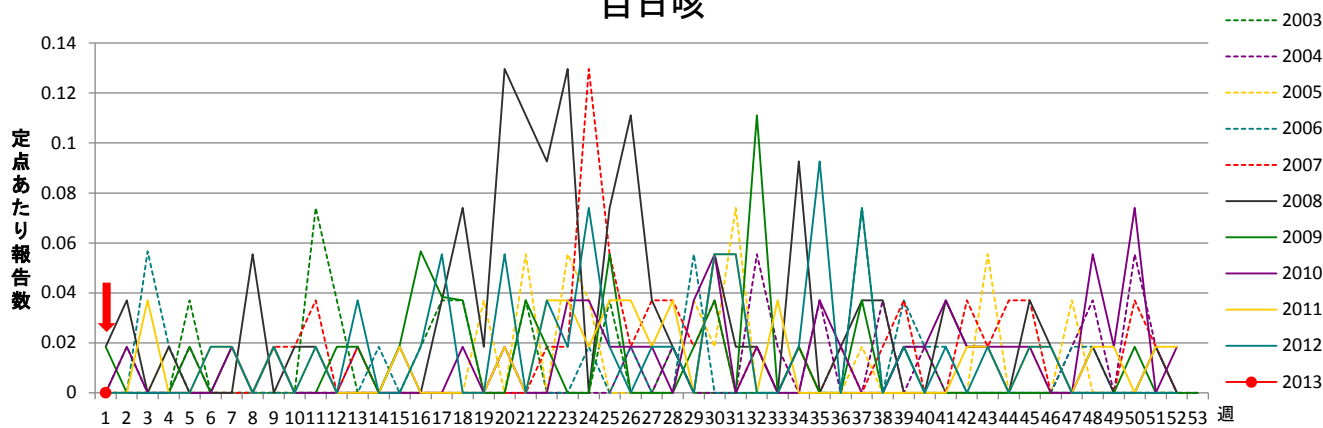
伝染性紅斑



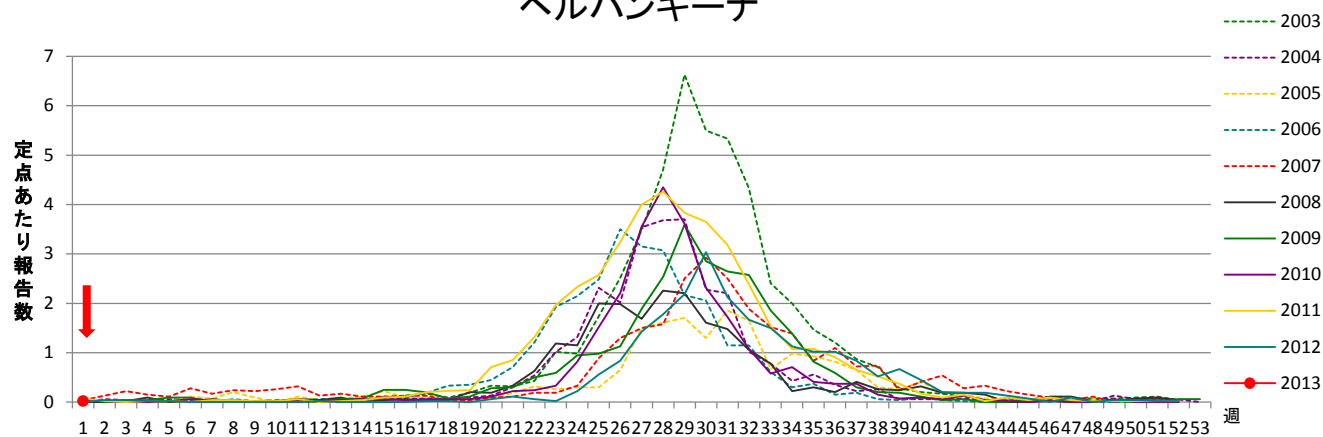
突発性発疹



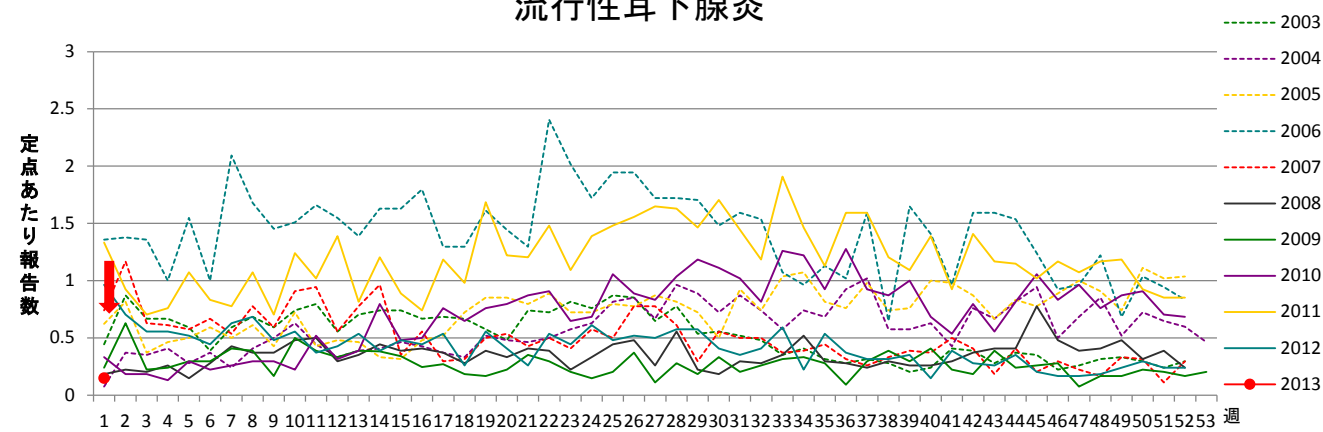
百日咳



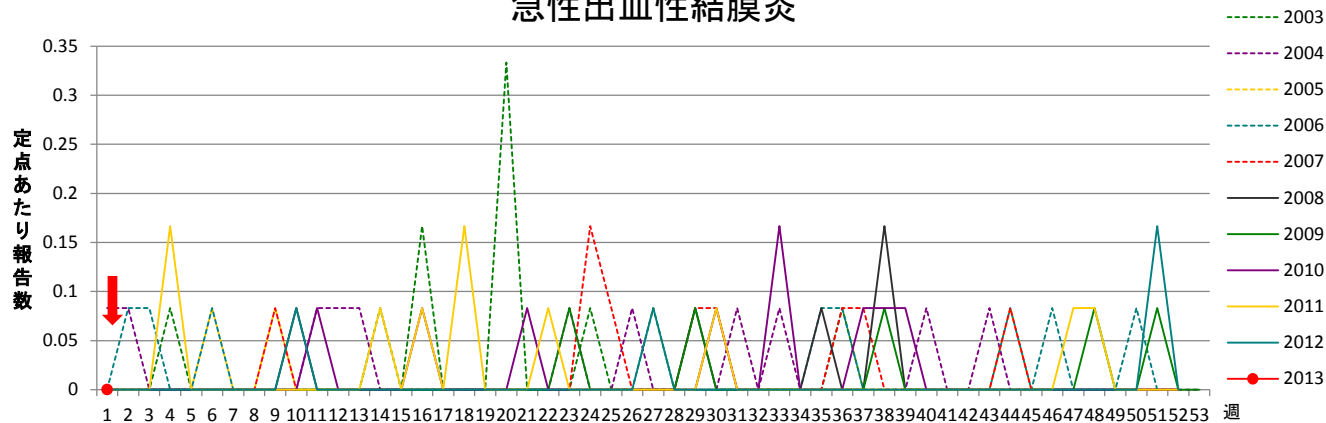
ヘルパンギーナ



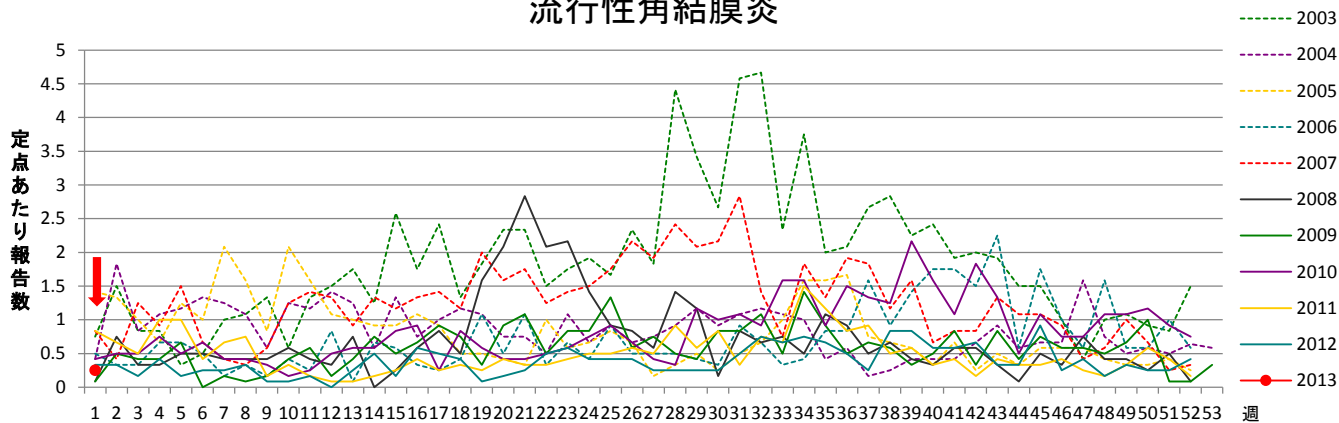
流行性耳下腺炎



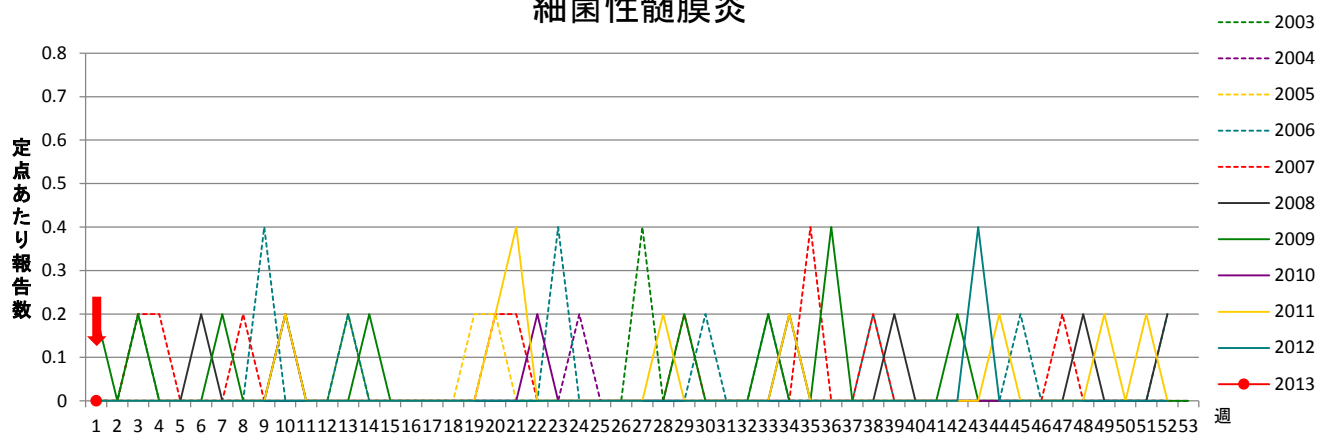
急性出血性結膜炎



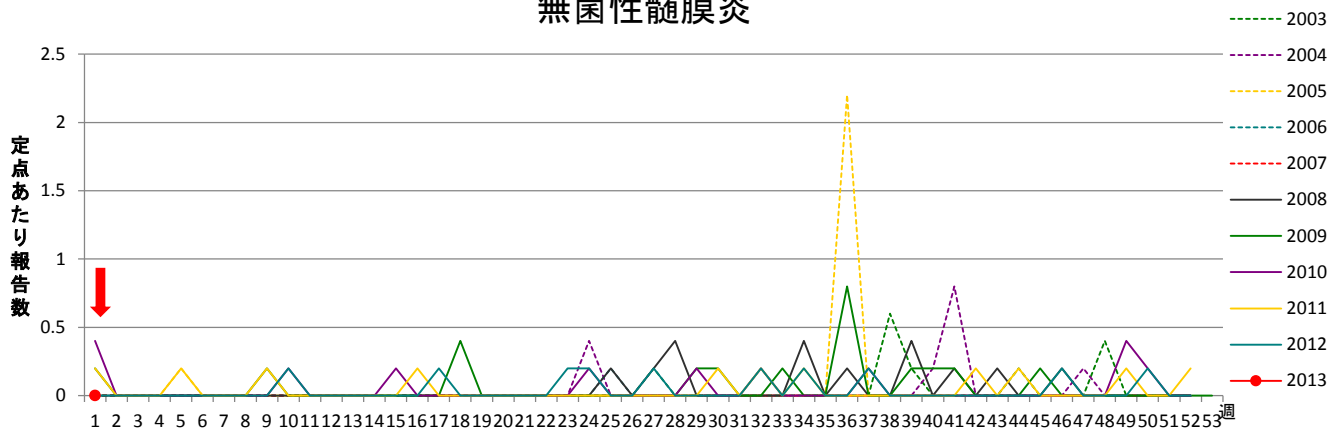
流行性角結膜炎



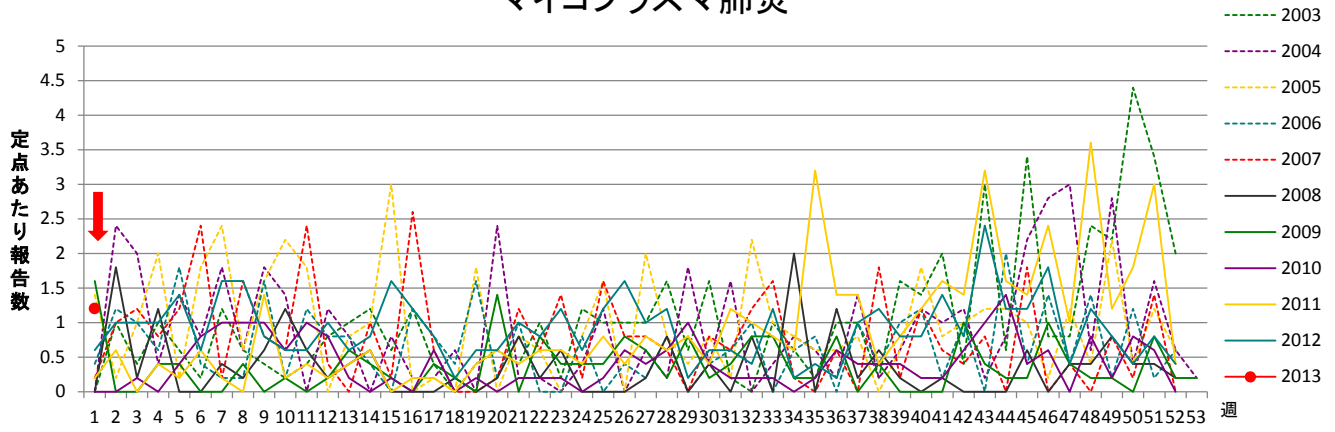
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

